

# 病害虫発生予報 第8号(11月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所  
TEL 0736(64)2300

## < 予報の概要 >

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病 つる枯細菌病 うどんこ病 ハダニ類 ウラナミシジミ	並 並 やや多 並 やや多	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや少 やや少 やや少
ダイコン ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病 アブラムシ類 コナガ ヨトウガ	並 やや多 やや少 やや少	カンキツ	果実腐敗病 ミカンハダニ	やや少 並
			果樹全般	カメムシ類	カンキツ 並 カキ やや多

## 気象予報

1か月予報（予報期間10月25日～11月24日 大阪管区气象台）

< 予想される向こう1か月の天候 >

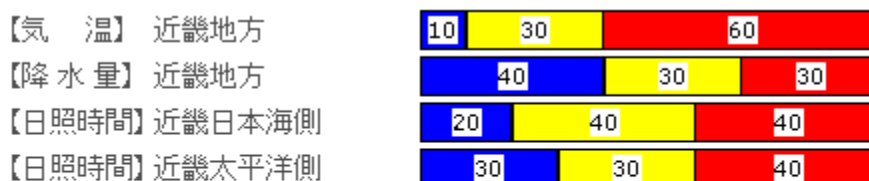
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。日照時間は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

		月平均気温 (平年値) (°C)	月降水量 (平年値) (mm)
11月	和歌山	13.5	和歌山 90.5
	潮岬	15.3	潮岬 160.2

# I. 野菜・花き

## <エンドウ>

### 1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は19%（平成12%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水に注意する。

② 施設栽培では、降雨が多い場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 2. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は0%（平成2%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が酷似する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットの発病抑制効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 3. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は38%（過去9年間の平均1%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 11月上旬以降に外張り被覆をする作型では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

### 4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は、カンザワハダニ32%（平成15%）、ナミハダニ0%（平成14%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬液が葉裏に十分かかるように散布する。

### 5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は68%（平成41%）、発生株率は21.0%（平成10.8%）であった。
- ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。

## <ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

### 1. 黒斑細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月下旬の発生ほ場率はいずれも0%（ハクサイ：平成8%、キャベツ：過去5年の平均12%）であった。
  - ② 一部のダイコン圃場では発生が散見されている。
  - ③ 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 常発地では降雨により多発するので薬剤の予防散布を行う。

### 2. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は20%（平成22%）、発生株率は4.0%（平成3.0%）、ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は50%（平成35%）、発生株率は14.0%（平成7.1%）であった。
  - ② 黄色水盤（紀の川市）への10月1～20日の飛来数は、74頭（平成45頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 葉液が株元の葉裏にかかるようにていねいに散布する。

### 3. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成9%）であった。
  - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平成1頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、系統の異なる薬剤をローテーションで散布する。

### 4. ヨトウガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成11%）であった。
  - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平成4頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 発生初期の若齢期の防除に努める。

## <野菜・花き全般>

### 1. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率27%、発生株率3.7%）であった。
  - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市1頭（平成10頭）、御坊市17頭（平成22頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 中齢～老齢幼虫は薬剤感受性が低いので、発生初期の若齢期に薬剤散布する。

## 2. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率44%、発生株率8.8%）であった。
  - ② 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率36%、発生株率7.5%）であった。
  - ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市211頭（平成741頭）、御坊市1,092頭（平成1,432頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 中齢～老齢幼虫は薬剤感受性が低いので、発生初期の若齢期に薬剤散布する。

## 3. オオタバコガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は11%（平成48%）、発生株率は1.1%（平成8.8%）であった。
  - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市33頭（平成9頭）、御坊市20頭（平成50頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 中齢～老齢幼虫は薬剤感受性が低いので、発生初期の若齢期に薬剤散布する。

# II. 果 樹

## <カンキツ>

### 1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生園率は3%（平成27%）であった。
  - ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
  - ② 果実はていねいに取り扱い、果面に傷をつけない。
  - ③ 収穫前の薬剤散布を励行する。

### 2. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生園率は17%（平年15%）、寄生葉率は3.9%（平年4.3%）であった。
- ② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。
- ② 収穫時期まで袋かけを行なう品種では袋かけ前に寄生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

## < 果樹全般 >

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 カンキツ：並 カキ：やや多

(2) 予報の根拠

- ① 紀の川市粉河の予察灯における10月16～20日のチャバネアオカメムシの誘殺数は0頭（平年2.5頭）、ツヤアオカメムシが8頭（同14.8頭）であった。
- ② 有田川町奥の予察灯における10月16～20日のチャバネアオカメムシの誘殺数は1頭、ツヤアオカメムシが18頭であった。
- ③ みなべ町東本庄の予察灯における10月16～20日のチャバネアオカメムシの誘殺数は1頭（多発年の平成25年を除く過去3年の平均0.3頭）、ツヤアオカメムシが31頭（同10.3頭）であった。
- ④ 県北部における10月下旬のカキの被害果率は「富有」で17.6%（平年12.0%）であった。
- ⑤ 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 園内外のカメムシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。
- ② 飛来がみられる園で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

**○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所コーナー>

[http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/  
boujyosyo-yosatsujyohou.html](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html)

**○和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2300)までお願いします。